

「芽吹きの家」会員の絵手紙から



齋藤 貞子 (中条)

この春から、この山を真正面に望める
「のよさの里」で働いています。

村の歳時記

5月…春の農作業がいきにはじまります。田んぼでは、耕起、代かき、田植えと6月初めまで作業が続きます。畑ではアスパラガス、山にはコゴミ、ゼンマイ、ワラビ、タラの芽、コシアブラなどの山菜や木の芽の旬を迎えます。農繁期の合い間をみでの採取も楽しみのひとつです。



武田 文子 (泉平)

家のそばの土手に群生している福寿草。
次はウド、その次はミョウガ芽が出てきます。



村の生き物
チョウゲンボウ

写真: 保護されたチョウゲンボウのヒナ

鳩より少し大きく、尾羽が長いのが特徴の猛禽類です。ネズミや昆虫、カエルなどを補食します。ここ数年来、栄村箕作の百合居橋アーチの空洞部分に営巣。2~3年前には巣穴から落ちたヒナ鳥が保護されています。中野市の十三崖では、本種が集団繁殖しており、国の天然記念物に指定されています。

栄村から季節のたより



「たっしゃかえ」: お達者ですか、お元気ですかの方言。

出会いの時

春がやって来ました。

四季の移り変わりの中で、こんなにも期待を持って迎えられる春の訪れには、皆様も格別な思いを感じていることと思います。

ところで皆様に春を運んで来るものは何でしょうか。春の訪れを知らせてくれるのは、どんなことでしょうか。例えば、まだ風が冷たくとも、紅梅が無彩色の景色の中に際だって咲いているのを見つけた時でしょうか。または、連翹(れんぎょう)の鮮黄色が群だっているのを見た時でしょうか。皆様のところへはどのような春の使者が訪れたのでしょうかと思いを巡らしています。

栄村の春の使者は、雪どけ水の音から始まります。まだ、雪がうず高く積っていても下の方から雪どけは始まっていて、水の流れる音がはっきりと聞こえ出すのです。やがて、ふきのとうがひとつ、ふたつ顔をのぞかせ、寒暖を行きつ戻りつしながら春は一気にやって来ます。冬期間、村を離れていたひとり暮らしの方も、春になると戻って来てくれます。たとえ足どりは軽やかでなくとも、たとえ指先がしなやかでなくとも「村には自分がやらねばならないことや、自分に求められることがあるで」とにこやかに語っていました。

こうして春は前途洋洋として私たちに訪れるのです。出不精だった自分をいさめつつ、また人と人との輪を広めていけたらと思います。春は出会いの時、また新たな出会いや再会を願っております。

2009年4月

栄村絵手紙芽吹き
の会
会長 渡辺つや子

芽吹き・・・躍動がはじまります。

ユキツバキ:冬の間は深い雪で寒さをしのぎ、重い雪にもしなやかに耐えて、雪消えとともに花を咲かせます。